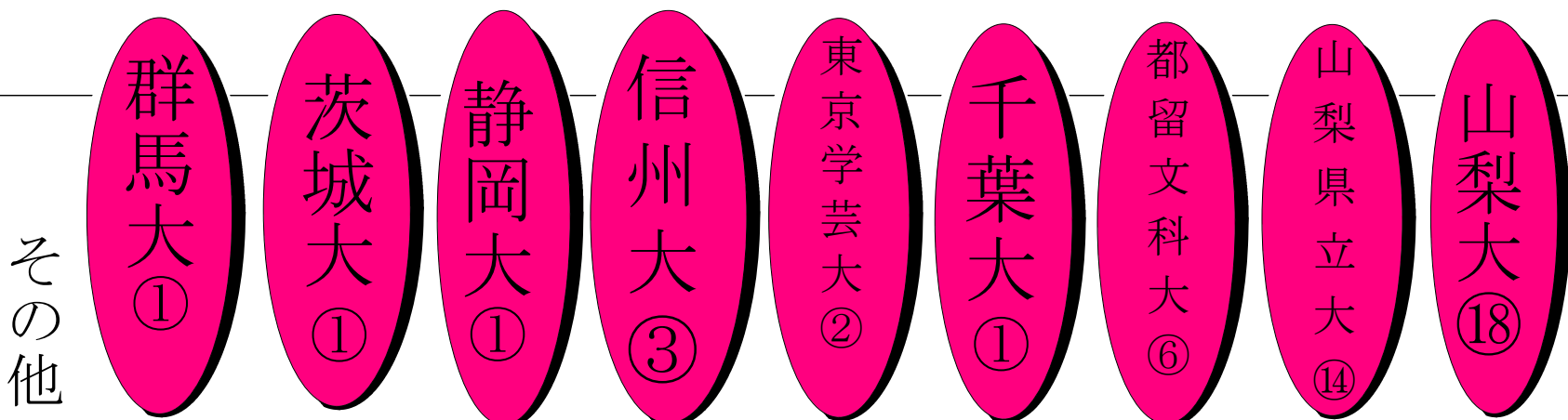


# THE HIKAWA TIMES

令和8年4月7日  
第108号  
発行：進路指導係

## 令和8年度入試 日川高校進路状況総括

### 国公立大学60名 私立大学237名



合格校 現役生のみ

【その他国公立】

室蘭工業大 1名

秋田大 1名

島根大 1名

琉球大 1名

神奈川県立保健福祉大 1名

公立諏訪東京理科大 1名

長野大 1名

長野県看護大 1名

長野県立大 1名

長岡造形大 1名

石川県立大 1名

釧路公立大 1名

秋田県立大 1名

【私立】

早稲田大 1名

明治大 2名

法政大 4名

明治学院大 1名

國學院大 1名

成蹊大 1名

日本大 6名

東洋大 7名

専修大 4名

工学院大 3名

その他多数

### 難関突破！その秘訣

東京学芸大学  
教育学部 学校教育教員養成課程  
B類家庭コース

私から、これからの受験生へ伝えたいことが三つあります。

一つ目は、人間は何にも慣れることができることです。正直、これから何か月も五時間とか十時間とか勉強しなければならぬと考えると、いやだなと感じると思います。でも、大丈夫です。始めてみてください。一週間もすれば、意外と体が慣れてきます。辛い時期がずっと続くわけはありません！

二つ目は、日々の心構えを持つことです。私は、一日、一分一秒も受験のためにるように、意義のあるものになるように心がけました。なぜなら、落ちることがとても怖かったからです。特に試験直前はとても不安でした。しかし、毎日が意義のあるものになっていると信じていることで、少しは不安を和らげることができました。そして、試験前にはできることは全てやったと思うことができました。それは自信につながりました。確実に成長につながりました。すべてを受験に捧げることが難しい時期は辛いですが、でも、絶対乗り越えられます！

三つ目は、上を目指すことができることです。私は、初めは他の大学を目指していましたが、これ以上レベルを上げると落ちてしまうと思っていました。でも、先生のアドバイスから少し上の大学を第一志望にしました。結果、成績はそこから伸び、第一志望に受かることができました。だから、初めから駄目だと諦めないでください。例えば、共テ模試の結果が今四五〇点だとします。十か月後も四五〇点なはずはありません。成績は必ず伸びます！

受験は、悲しいことや辛いことだけではありません。友達と一緒に放課後勉強した思い出や努力の

成果が出た嬉しかった思い出など、受験生にしか経験できないこともたくさんあります。私も共テ直前にみんなでお菓子交換しながら励ましあったのが忘れられない思い出です。だから、受験生という限られた時間を楽しんでください。応援しています。がんばれ！！

信州大学  
理学部 理学科 物理学コース

私が受験期を通して大切だと感じたことを紹介します。受験に向けての参考程度に目を通してください。

一つ目は、誰かと一緒に勉強することです。私は部活が終わった後は、放課後毎日学校に残り、教室で勉強をしていました。学校で勉強することのメリットは教えられることができることです。分からないところがあれば友達と教え合うことができます。「分からない」をすぐに解決することはとても大事です。また、教え合うことは教えてもらう側の理解が深まるだけでなく、教える側の理解も一層深まります。一人で黙々と勉強する

時間はとても大切ですが、集合知を用いて理解を深め合う時間も同じくらい大切だと思います。

二つ目は、大学調べを早い時期にしっかりとしておくことです。特に私立の受験方式はそれぞれの大学ごとにばらばらで先生方でさえ把握しきれないほど複雑です。私は私立の併願校を考え出したのが遅かったのもとても苦労しました。これは私立大学に限らず国立大学についても同じです。共通テストの得点圧縮率が異なることや、二次試験の科目や得点など、知っていれば得になることは山ほどあります。また英検などの資格で英語の試験が満点換算になる大学もあります。今の受験は情報戦でもあります。情報をたくさん持つておくことで合格のチャンスを広めることができると思います。

受験はあつという間に終わります。もちろんこれは受験がすべて終わってからの感想です。当然受験が終わるまでは途方もなく長い時間がかかります。私自身、勉強が嫌になって投げだしそうなきもあつたし、思うように結果が出ないことが何度もありました。ですが、諦めずに机に向かい続けなければ必ず自分の力と自信になります。受験が終わったときに悔いが残らないようにこの一年全力で頑張ってください。応援しています！

### 令和八年度入試を振り返って

国公立大学に六十名の合格を輩出しました。県内では山梨大に八名、山梨県立大に一四名、都留文科大に六名合格というように、例年同様地元大学への進学が多くなりました。県外では関東や近県で千葉大一名、東京学芸大二名、信州大三名、静岡大一名、茨城大一名、群馬大一名、神奈川県立保健福祉大一名、公立諏訪東京理科大一名、長野県立大一名合格しています。また、遠方である室蘭工業大、島根大、琉球大、秋田県立大、長岡造形大等にも合格し進学を決めています。

私立大学は、早稲田大をはじめ明治大や法政大、明治学院大、國學院大、成蹊大等二三七名が合格しました。昨年度の大学入試は「新課程入試」の二年目でした。入試方式も多様化が進み、国公立・私立を問わず「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」などの年内入試の枠が広がっているのが特徴です。共通テストは全科目マーク式ですが、思考力・判断力・表現力を問う長文読解や資料解釈が中心です。日常的な場面設定や複数資料の統合的な読解が特徴で、時間制限が厳しく、高い情報処理能力が全科目で求められました。

先輩方の体験談を参考に、今日から学習と生活の質・量の双方を高め、目標実現に一步步近づいてほしいと思います。

(進路指導係 紺野英)

